

令和9年度

試験曲

音楽学部教科・科目に係る個別テスト等

< 総合型選抜 >

< 学校推薦型選抜 >

< 一般選抜 >



沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

目次

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、 ディプロマ・ポリシー	1
各専攻試験において入学前に身につけておいてほしい力	3
I 総合型選抜	5
1 試験科目一覧	5
2 試験内容及び試験曲等	6
《専攻試験》	
(1) 音楽表現専攻声乐コース	6
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	7
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	7
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	10
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	15
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	15
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	15
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	16
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	16
《プレゼンテーション》	
(1) 音楽表現専攻	18
(2) 音楽文化専攻	18
(3) 琉球芸能専攻	18
《面接》	
全専攻共通	19
II 学校推薦型選抜	20
1 試験科目一覧	20
2 試験内容及び試験曲等	21
《専攻試験》	
(1) 音楽表現専攻声乐コース	21
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	21
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	21
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	21
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	21
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	21
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	21
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	22
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	22
《音楽に関する基礎能力検査》	
(1) 楽典	22
(2) 聴音	22
(3) 副科ピアノ	22
(4) 音楽又は舞踊の実技	22

Ⅲ 一般選抜	23
1 試験科目一覧	23
2 併願について	24
3 試験内容及び試験曲等	25
《専攻試験》	
(1) 音楽表現専攻声乐コース	25
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	26
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	26
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	29
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	34
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	34
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	34
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	34
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	35
(10) 社会人選抜（音楽文化専攻、琉球芸能専攻）	36
《音楽に関する基礎能力検査》	
(1) 楽典	37
(2) 聴音	37
(3) 副科ピアノ	37
(4) 音楽又は舞踊の実技	37

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の養成をめざします。

豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄で育まれた個性ある音楽・芸能及び普遍的価値を持つ音楽芸術の体系的な研究を通じ、それらの継承発展とともに新たな芸術創造に寄与できる人材育成を目指します。そのために、専門分野における知識・技能を深めるとともに、広い視野を持って思考し、問題解決を行うために必要な教養を身につける教育を行います。

【求める人物像】

音楽学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

- 1 本学及び音楽学部のポリシーを十分理解し、大学での学習に自律的に取り組むことのできる人
- 2 音楽学部における学習に必要な基礎的知識・技能及び課題解決のための思考力・判断力・表現力を備えている人
- 3 自身の知識・技能をさらに伸ばし、将来、演奏家、作曲家、実演家、研究者又は教育者など、音楽・芸能分野における専門家となる意欲のある人
- 4 芸術創造の営みについて、現代社会との関わりの中で思考し、主体性を持って多様な人々と協働する意欲のある人
- 5 音楽や舞踊、沖縄における芸術文化や本学での学びに関心がある人

【入学者選抜試験の基本方針と実施】

音楽学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。その際、大学入学前に学んでおくべき内容・水準について、募集要項と併せて公表する『試験曲』によって明示するものとします。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）を総合的に評価します。

なお、入試区分及び募集枠ごとに、総合点に基づき合格者の選抜を行います。

各入試区分における評価方法は以下の通りです。

- 1 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語（英語はリスニングテストを含む。）及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力等を測り評価します。また、個別テスト等において、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査及び面接を課し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。本区分においては、全般的な学習能力について総合的に評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
- 2 学校推薦型選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査及び面接を課し、大学での学習に必要な知識、技能及び主体性等を測り評価します。本区分においては、専門分野における高い能力、調査書及び志願者本人の記載する書類等をもとに実施する面接等における評価を重視します。また、高等学校長からの推薦書を活用します。

- 3 総合型選抜では、専攻別に設定する専攻試験、プレゼンテーション及び面接を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を測るとともに、本人の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定します。また、多面的、総合的な評価を行うため、面接等において、調査書及び志願者本人が記載する書類等を活用します。
- 4 社会人選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力及び主体性などを測り評価します。本区分では、専攻実技の習熟度及び小論文・口述試験の内容を重視し評価します。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 学生の多様な資質・能力を伸長するための少人数による教育
- 2 専門教育（主要科目）における、4年間にわたる段階的履修
- 3 各専門分野における基本的知識・技能を培うための、必修科目を中心とした体系的・横断的な科目編成
- 4 自然や地域、言語、芸術諸分野及び一般教養など幅広い教養を通して、汎用的基礎能力を身に付けるための全学教育科目の編成
- 5 学生の多様な関心や課題発見を促し自律的に学習できる選択科目の提供
- 6 様々な学びを統合し、地域・社会との連携を通して、芸術（音楽・芸能）と社会との関係を学ぶ科目の提供

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識、技能について体系的に理解している。
- 2 音楽・伝統芸能の各分野における基礎的知識、技能について歴史、文化、社会、自然と関連付けて理解できている。
- 3 課題解決に必要な汎用的能力（論理的思考力、情報リテラシー、コミュニケーション・スキル等）を身につけている。
- 4 各分野の専門的な知識・技能と研究能力を身につけている。
- 5 卒業後も社会における自己の役割を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
- 6 獲得した知識や能力等を活用し、自らの課題を発見し解決する能力を身につけている。

各専攻試験において入学前に身につけておいてほしい力

I 音楽表現専攻

(1) 声楽コース <課題曲、自由曲、コールユーブンゲン>

【知識・技能】

- 声楽実技における基礎的能力（無理のない発声、正しい音程・リズム・発音、コールユーブンゲンを学習済み）
- 音楽の基礎的能力（読譜力、ピアノを使用しての音取り、歴史や文学に関する基礎知識）
- 語学力（イタリア語やドイツ語の辞典の引き方がわかる、発音記号が読める）

【表現力・思考力・判断力】

- 主体的な表現力
- 他の楽器ピアノなどや合唱アンサンブルなど、他者とコミュニケーションを取りながら楽曲を仕上げていく能力

(2) ピアノコース <課題曲A,B,C>

【知識・技能】

- ピアノの基本的奏法における技術的習熟
- スケールやアルペジオの継続的訓練、ソルフェージュ、楽典
- 正確な読譜力

【表現力・思考力・判断力】

- 各課題における様式の理解
- 演奏における自発的表現力
- 音色の変化と多様性、完成度

(3) 弦楽コース <音階、課題曲A,B>

【知識・技能】

- 基礎的能力（弦楽器の取り扱い、フォームや運弓法等）
- 音階演奏への習熟（数多くの調性に慣れておくこと）
- 課題曲に含まれる様々な演奏技術への習熟
- 様々な音楽の鑑賞を通じた表現法に対する知識

【表現力・思考力・判断力】

- 上記、演奏表現に必要な知識や技能を関連付けて運用する力
- 楽曲を短期間で仕上げていく能力
- 表現意欲を備え、個性豊かに器楽表現を創意工夫する力

(4) 管打楽コース <音階、課題曲>

【知識・技能】

- 管打楽器の基本的な奏法（演奏フォーム、自然な発音、手指のコントロール等）
- 豊かに響く音色
- 音程、リズムの正確さ
- 楽典の知識（楽語、表示記号、調性等）

【表現力・思考力・判断力】

- 楽譜を正確に読み演奏できる力（アーティキュレーション、ダイナミックス等）
- 楽譜から読み取れる曲想を表現できる力
- 作品の構成を理解し、表現できる力

(5) 作曲理論コース <作曲実技、口述試験>

【知識・技能】

- 作曲実技における基礎的能力（手書きの記譜法についての知識、和声学の知識）
- 音楽の基礎的能力（楽式についての知識、楽器についての知識、調性音楽に関する知識）

【表現力・思考力・判断力】

- 主体的な表現力（音楽への深い興味）
- 提出作品の理論的な説明

2 音楽文化専攻

沖縄文化コース、音楽学コース<小論文、口述試験>

【知識・技能】

- 課題図書に対する理解（※総合型選抜および一般選抜入試）
- 音楽や舞踊に対する知識・理解、関心・問題意識

【表現力・思考力・判断力】

- 論理性、思考力
- 独創性、発想力
- 文章構成力、表現力（誤字脱字や文章の技術等も含む）

3 琉球芸能専攻

(1) 琉球古典音楽コース <調弦、課題曲、自由曲>

【知識・技能】

- 基礎的能力（三線・箏の取り扱い、発声・発音）
- 調子笛を使用した様々な音高を基音とした調弦ができる
- 試験曲に含まれる様々な演奏への習熟

【表現力・思考力・判断力】

- 上記、演奏表現に必要な知識への理解
- 楽曲を短期間で仕上げていく能力
- 個性豊かに琉球古典音楽や沖縄音楽表現を創意工夫する力

(2) 琉球舞踊組踊コース <課題曲、自由曲、初見演技、初見視唱>

【知識・技能】

- 基礎能力（姿勢、構え方、歩み、目線）
- 様々な音曲に合わせた所作とリズム感を備えている
- 試験曲に含まれる基礎的な演舞の習得

【表現力・思考力・判断力】

- 上記、琉球舞踊の表現に必要な知識への理解
- 琉球舞踊、組踊の所作や台詞の特徴を捉え、即座に表現できる力
- 個性豊かに琉球舞踊、組踊の表現を創意工夫する力

I 総合型選抜

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・コース		専攻試験			プレゼンテーション	面接
		実技検査	小論文	口述試験		
音楽表現専攻	声楽コース	◎			◎	◎
	ピアノコース	◎			◎	◎
	弦楽コース	◎			◎	◎
	管打楽コース	◎			◎	◎
	作曲理論コース	◎		◎	◎	◎
音楽文化専攻	沖縄文化コース		◎	◎	◎	◎
	音楽学コース		◎	◎	◎	◎
琉球芸能専攻	琉球古典音楽コース	◎			◎	◎
	琉球舞踊組踊コース	◎			◎	◎

注1：◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目を示す。

注2：声楽、弦楽、管打楽、琉球古典音楽コース入学志願者の専攻試験の種目は以下のとおりである。

(声 楽) ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(弦 楽) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

(管打楽) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、
トランペット、テナートロンボーン、バストロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、
打楽器 (A：小太鼓、B：マリンバ)

(琉球古典音楽) 歌三線、琉球箏

注3：提出された各種書類を活用して面接試験を実施する。

2 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声楽コース

注意事項：

- ① 課題曲、自由曲とも暗譜で歌うこと。歌詞は原語で歌うこと（ただし、曲によっては通例歌われている他の外国語で歌うことも可）。
- ② 伴奏者は本学で用意する。ただし、事前の伴奏合わせは行わない。
- ③ 時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。
- ④ 演奏する曲目に必ずイタリア語の曲を含むこと。

<課題曲> 下記の課題曲 17 曲の中から任意の 1 曲を選択し、入学願書に記入すること。

①	A. Caldara	Sebben, crudele	(d-moll, e-moll)
②	G. B. Pergolesi	Se tu m'ami	(es-moll, f-moll, g-moll)
③	G. Giordani	Caro mio ben	(Es-dur, F-dur)
④	A. Scarlatti	Già il sole dal Gange	(G-dur, As-dur, B-dur)
⑤	G. B. Bononcini	Per la gloria d'adorarvi	(G-dur, F-dur, Es-dur)
⑥	A. Scarlatti	Sento nel core	(d-moll, es-moll, f-moll, g-moll)
⑦	F. Gasparini	Lasciar d'amarti	(d-moll, f-moll, g-moll)
⑧	F. Durante	Vergin, tutto amor	(h-moll, c-moll, d-moll)
⑨	W. A. Mozart	Das Veilchen	(E-dur, G-dur)
⑩	F. Schubert	An die Musik	(B-dur, C-dur, D-dur)
⑪	F. Schubert	Frühlingsglaube	(F-dur, G-dur, As-dur)
⑫	R. Schumann	Die Lotosblume	(Des-dur, Es-dur, F-dur)
⑬	弘田龍太郎	浜千鳥	(C-dur, Es-dur)
⑭	瀧廉太郎	荒城の月	(c-moll, d-moll)
⑮	山田耕筰	かやの木山	(C-dur, D-dur)
⑯	信時潔	行々子	(Fis-dur)
⑰	中田喜直	さくら横ちょう	(b-moll, a-moll)

* ()内の調は、本学が用意する伴奏用楽譜の調である。他の調で歌う場合は、希望の調の伴奏用楽譜を出願書類とともに提出すること。

* イタリア歌曲は外国版を使用する時は、伴奏用楽譜を出願書類とともに提出すること。

<自由曲> 課題曲以外の任意の曲。曲数は問わないが、自由曲は7分以上10分以内とする。

※ 自由曲で演奏する全ての楽曲は、出願書類とともに楽譜を提出すること。

※ 演奏する曲目を入学願書に記入すること。

※ 入学後はクラシックの声楽作品を学びます。

<コールユーブンゲン>

F. Wüllner : Chorübungen 全曲の中から、当日1曲を指定する。

固定ド、移動ド、のどちらで歌ってもよい。

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

注意事項：課題曲はA,B,Cの順に演奏し、すべて暗譜で演奏すること。

繰り返しは省略する。時間の都合により演奏の一部を省略または中断を求めることがある。

下記の課題曲A,B,Cについてそれぞれ任意の曲を1曲選択し、入学願書に記入すること。

<課題曲A>

J. S. Bach：平均律クラヴィア曲集第1巻または第2巻より任意の1曲
(プレリュードとフーガ)

<課題曲B>

F. Chopin：練習曲 Op.10 または Op.25 より任意の1曲 (Op.10-3, Op.10-6, Op.25-7 を除く)

<課題曲C>

L. v. Beethoven：ピアノ・ソナタ (Op.2-1~Op.90) より任意の第1楽章
(Op.27-1, Op.27-2, Op.49-1, Op.49-2, Op.79 の5曲を除く)

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

注意事項：すべて暗譜、無伴奏で演奏すること。記号による反復は行わない。

試験曲のうち、指定した版のある曲以外は、どの版を使用しても良い。

時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

◆ヴァイオリン

<音階>

Carl Flesch：Scale system より任意の調一つを選択。

5番 (3オクターヴの音階 Tempo は♩ = 80~100) 全部。

6番 (3度の音階 Tempo は自由) 冒頭4小節。

7番 (6度の音階 Tempo は自由) 冒頭4小節。

8番 (8度の音階 Tempo は自由) 冒頭4小節。

*フィンガリングは自由。

*スラー、リズムはC-dur に準じること。ただし重音のスラーは一拍ずつのスラーで演奏すること。

<課題曲A>

以下の練習曲、または、これらと同等程度以上の練習曲から任意の1曲を選択。

P. Rode：24 Caprices

J. Dont：24 Etudes and Caprices Op.35

<課題曲B>

任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章 (カデンツァは除く。ただし、作曲者が曲中に著したものについては演奏すること)。

◆ヴィオラ

<音階>

C-dur の音階。Tempo は♩ = 80 以上

フィンガリングは自由。ただしボーイングは譜例に従うこと。



<課題曲 A>

R. Kreutzer : 42 Etudes より任意の 1 曲（但しヴィオラ用の編曲）を選択。

<課題曲 B>

任意のヴィオラ協奏曲より第 1 楽章（カデンツァを除く）。

◆チェロ

<音階>

J. Loeb: Gammes et arpèges より任意の調 1 つを選択。

4 オクターブの音階、4 オクターブの分散 3 度を、4 つずつのスラーで。

4 オクターブのアルペッジョを、3 つずつのスラーで。

2 オクターブの 3 度重音、6 度の重音を、スラーなしのレガートで。

<課題曲 A>

J. L. Duport: The 21 Famous Exercises (Etudes) より任意の 1 曲を選択。

<課題曲 B>

古典派以降の任意の協奏曲より、第 1 楽章または最終楽章（カデンツァを含む）。

◆コントラバス

<音階>

下記の楽譜の調性で演奏する。

フィンガリングは自由。ただしボーイングは譜例に従うこと。

The image shows seven staves of musical notation for a double bass exercise. The notation is in bass clef with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). The exercise consists of seven lines of music, each containing various rhythmic patterns and triplets. The first line starts with a treble clef and a common time signature, then switches to a bass clef. The second line is in bass clef. The third line is in bass clef. The fourth line is in bass clef. The fifth line is in bass clef. The sixth line is in bass clef. The seventh line is in bass clef. The notation includes many triplets and slurs, indicating a complex rhythmic and melodic exercise.

<課題曲 A >

F. Simandl : 30 Etudes より任意の 1 曲を選択。

<課題曲 B >

任意のコントラバス協奏曲より第 1 楽章 (カデンツァを除く)。

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

注意事項：無伴奏で演奏すること。暗譜でなくてもよい。
時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

【木管楽器】

◆フルート

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① E. Koehler : 35 Exercises op. 33 第2巻 (12 Medium Difficult Exercises) より
No.2,5,7,8,10,11 の中から1曲を当日指定する。(版は自由)
- ② W. A. Mozart : Concerto in G major K.313 より第1楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆オーボエ

<音階>

須川展也：新版サクソフォーンのためのトレーニングブック (音楽之友社版) 55 ページの音型を用い、長調の音階をスラーで演奏すること。繰り返しなし。テンポは♩=80~92 とする。演奏する調は当日指定する。

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① F. W. Ferling : 48 Etudes op.31 よりNo.1~No.6 の中から1曲を当日指定する。(版は自由)
- ② J. Haydn : Concerto in C major Hob.VIIg:C1 より第1楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆クラリネット

<音階>

R. Eichler : Scales for Clarinet 全長調の1番の中から演奏する。
調、アーティキュレーションは当日指定する。
(国立音楽大学教育出版部)

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Rose : 32 Etudes より No.13~No.20 の中から1曲を当日指定する。(Leduc 版)
- ② C. M. v. Weber : Concertino für Klarinette und Orchester Es-dur op.26 J.109 (版は自由)

◆ファゴット

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① J. Weissenborn : Studies for Bassoon op.8 vol.2 より No.4,6,8,10,13,14 の中から 1 曲を当日指定する。
(版は自由、繰り返しなし)
- ② A. L. Vivaldi : Concerto in la minore F8/7 RV497 より 第 1 楽章 (Ricordi 版)

◆サクソフォーン

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① F. W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones より No.5,6,11,12,17,18 の中から数曲当日指定する。(Leduc 版)
- ② P. Creston : Sonata op.19 より 第 1 楽章

【金管楽器】

(共通課題)

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



◆ホルン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.3,13,15 の中から 1 曲、No.17,26,28 の中から 1 曲の計 2 曲を当日指定する。(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② W. A. Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr.3 Es-dur KV 447 より第 1 楽章 (カデンツァを除く、Breitkopf&Härtel 版)

◆トランペット

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.8,10,12,15,19 の中から 1 曲を当日指定する。(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② T. Charlier : Solo de Concours (Schott 版)

◆テナートロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.5,6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由、繰り返しなし)
- ② A. Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (版は自由)

◆バス・トロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。
(1 オクターヴ下げて演奏する、版は自由、繰り返しなし)
- ② A. Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (Reift 版)
※テナー用の原曲を完全 4 度低く移調したバス・トロンボーン用の編曲で演奏すること。

◆ユーフォニアム

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.7,8,9,11 の中から 1 曲を当日指定する。
(版は自由、繰り返しなし)
- ② A. Capuzzi: Andante and Rondo from Concerto for D. Bass (Peters 版)
※ソロ譜はユーフォニアムのパート譜を使用すること

◆テューバ

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies より No.3,10,14,15,19,20 の中から 2 曲を当日指定する。
(Robert King 版、繰り返しなし)
- ② J. S. Bach : Air and Bourrée (W.J.Bell 編曲 Carl Fischer 版)
※使用楽器は、B♭、C、F 管のいずれかとする。

【打楽器】

打楽器 (A)、打楽器 (B) のどちらかを選択し入学願書に記入すること。

◆打楽器 (A) 小太鼓

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、七つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。

奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① M. Goldenberg : Modern school for Xylophone, Marimba, Vibraphone 39 Etudes より I (chappel & Co 版)

C. S. Wilcoxon : The All American Drummer より No.35~46 の中から数曲を当日指定する。
(Ludwig Masters 版)

② Siegfried Fink : Trommel-Suite (Zimmermann 版) より II .toccata V.marcia

◆打楽器 (B) マリンバ

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。

奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① W. F. Ludwig : Collection Drum Solos より 8 ページ Col.Andrews' (Ludwig Music Publishing 版)

M. Goldenberg : Modern school for Xylophone, Marimba, Vibraphone 39 Etudes より V, XII, XIV,

XVIIIから1曲を当日指定する。(chappel & Co 版)

- ② 三善晃：組曲「会話」(音楽之友社版) より 1.やさしいお話 3.いつまでも くやしい

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

<実技検査>

- ① 筆記試験 (試験時間 90 分)

和声課題の実施。ソプラノ課題およびバス課題を四声体で実施する。

- ② 作品提出

作曲または編曲作品の楽譜を提出すること。提出作品数は3曲以内とし、提出作品には、ソナタ形式の作曲作品を1曲以上含むこと。

※提出作品の楽譜(製本せず表紙を含め、無記名)は出願書類と一緒に提出すること。

<口述試験>

実技検査で実施した和声課題、出願者自身の作曲または編曲作品の楽譜などに関する質疑を実施する。

※口述試験の際には、提出した楽譜コピーを持参すること。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

<小論文>

試験当日、次の課題図書に基づいて出題し、論述を求める。(試験時間 90 分)

【課題図書】井上さつき『万博からみた音楽史』(中公文庫、2025)

<口述試験>

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書を持参すること。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

<小論文>

試験当日、次の課題図書に基づいて出題し、論述を求める。(試験時間 90 分)

【課題図書】井上さつき『万博からみた音楽史』(中公文庫、2025)

<口述試験>

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書を持参すること。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

注意事項：＜課題曲＞＜自由曲＞の試験は、各自持参した楽器を使用すること。ただし、箏は本学で準備したものを使用できる。

＜課題曲＞の工工四使用は任意とする。ただし、＜自由曲＞は暗譜で演奏すること。

◆歌三線

＜課題曲＞

- ・かぎやで風節
- ・上り口説 ※1、2、3、8番
- ・秋の踊り（道輪口説） ※1、2、3、4番

※上記3曲の中から1曲を選択し、入学願書に記入すること。

＜自由曲＞

琉球古典音楽、八重山古典民謡、沖縄（沖縄本島・宮古・八重山含む）・奄美の民謡から任意の1曲を選択し、入学願書に記入すること。ただし、菅攪・手事など歌を伴わない曲を除く。

※本コースでは、入学後、琉球古典音楽を学びます。

◆琉球箏

＜課題曲＞

瀧落菅攪

＜自由曲＞

琉球古典音楽、八重山古典民謡、沖縄（沖縄本島・宮古・八重山含む）・奄美の民謡から任意の1曲を選択し、入学願書に記入すること。ただし、菅攪・手事など歌を伴わない曲を除く。

※本コースでは、入学後、琉球古典音楽（琉球箏曲）を学びます。

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

注意事項：＜課題曲＞＜自由曲＞の地謡用音源（CD）は、出願書類と一緒に提出すること。

＜課題曲＞

かぎやで風

＜自由曲＞

琉球舞踊、八重山舞踊等、創作舞踊の中から1演目を選択し、入学願書に記入すること。

演舞時間は8分以内とする。ただし、時間の都合上、演舞の途中で中断を求めることがある。

＜組踊の唱え＞

下記の組踊の詞章を模倣者に続いて唱えること。

組踊「執心鐘入」より

若松詞

わぬや中城

若松どやゆる

みやだいらごとあてど

首里にのぼる

廿日夜のくらさ

行く先やまよて

ことに山路の
露もしげさ
あの村のはづれ
火の光たよて
立寄り今宵
あかしほしやの

出典：伊波普猷『校註琉球戯曲集』（榕樹社、1992）
※本コースでは、入学後、琉球舞踊・組踊を学びます。

《プレゼンテーション》

- ※出願時に本学指定様式による「プレゼンテーション形式申告書」を提出すること。
- ※プレゼンテーション実施に関する注意事項については大学ウェブサイトで発表する。(7月下旬予定)
- ※使用できるアプリケーションは Microsoft PowerPoint、Acrobat Reader (PDF)とする。
- ※各専攻の指定する日程にデータを入れた USB と、データをプリントアウトした紙媒体 1 部を持参すること。

(1) 音楽表現専攻

「あなたの興味のある芸術や音楽に関すること」について、プレゼンテーション形式で5分以内にまとめて発表を行うこと。

【留意事項】

- ・楽器演奏、歌唱、演舞を含まず発表を行うこと。
 - ・発表に使用するパソコンは大学で用意する。
- プレゼンテーションで実施できる方法は「プレゼンテーション形式申告書」の「プレゼンテーションの実施方法」を参照すること。

※プレゼンテーションの実施方法にかかる注意事項は、本学ウェブサイトで7月下旬に公表されるので確認すること。

(2) 音楽文化専攻

「あなたの興味のある音楽文化」についてプレゼンテーション形式で5分程度にまとめて発表を行うこと。

【留意事項】

- ・発表中に楽器演奏、歌唱、演舞を行なっても良い。ただし、曲の途中で中断を求めることがある。
 - ・発表に使用するパソコンは大学で用意する。
 - ・大学で用意できる楽器はピアノのみ。その他、演奏に使用する楽器は受験者本人が持ち運びできる範囲とする。(電子楽器は不可)
 - ・舞踊等を行う場合には、伴奏音源を CD のみとし、受験者本人が準備すること。(再生機器は大学で用意する)
- プレゼンテーションで実施できる方法は「プレゼンテーション形式申告書」の「プレゼンテーションの実施方法」を参照すること。

※プレゼンテーションの実施方法にかかる注意事項は、本学ウェブサイトで7月下旬に公表されるので確認すること。

(3) 琉球芸能専攻

「専攻試験で演奏・演舞した課題曲、または自由曲の特徴」について、プレゼンテーション形式で5分程度にまとめて発表を行うこと。

【留意事項】

- ・発表中に楽器演奏、歌唱、演舞を行なっても良い。ただし、曲の途中で中断を求めることがある。
- ・発表に使用するパソコンは大学で用意する。
- ・演奏に使用する楽器は受験者本人が準備すること。(ピアノ、電子楽器は使用不可)
- ・舞踊等を行う場合には、地謡用音源を CD のみとし、受験者本人が準備すること。(再生機器は大学で)

用意する)

プレゼンテーションで実施できる方法は「プレゼンテーション形式申告書」の「プレゼンテーションの実施方法」を参照すること。

※プレゼンテーションの実施方法にかかる注意事項は、本学ウェブサイトで7月下旬に公表されるので確認すること。

《面接》

全専攻共通

面接のために、本学指定様式による「活動報告書」「志願理由書」の提出を求める。

また、人物の志向性や学習に対する意欲、芸術を志す者としての資質等を多角的に評価するため15分程度の面接を実施する。

II 学校推薦型選抜

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・コース		専攻試験			音楽に関する基礎能力検査				面接
		実技 検査	小論文	口述 試験	楽典 (注2)	聴音	副科ピアノ	音楽又は 舞踊の実技 (注3)	
音楽表現専攻	声楽コース	◎			◎	◎	◎		◎
	ピアノコース	◎			◎	◎			◎
	弦楽コース	◎			◎	◎	◎		◎
	管打楽コース	◎			◎	◎	◎		◎
	作曲理論コース	◎		◎	◎	◎	◎		◎
音楽文化専攻	沖縄文化コース		◎	◎	◎			◎	◎
	音楽学コース		◎	◎	◎	◎	◎		◎
琉球芸能専攻	琉球古典音楽コース	◎			◎				◎
	琉球舞踊組踊コース	◎			◎				◎

注1：◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目を示す。

注2：沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、音楽表現専攻及び音楽学コースの楽典とは別問題とする。

注3：音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

注4：声楽、弦楽、管打楽、琉球古典音楽コース入学志願者の専攻試験の種目は以下のとおりである。

(声 楽) ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(弦 楽) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

(管打楽) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、
テナートロンボーン、バストロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、
打楽器 (A：小太鼓、B：マリンバ)

(琉球古典音楽) 歌三線、琉球箏

2 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声楽コース

一般選抜に同じ

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

一般選抜に同じ

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

一般選抜に同じ

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

一般選抜に同じ

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

<実技検査>

作曲または編曲作品の楽譜を提出すること。提出作品数は3曲以内とし、提出作品には、ソナタ形式の作曲作品を1曲以上含むこと。

※提出作品の楽譜（製本せず表紙を含め、無記名）は出願書類と一緒に提出すること。

<口述試験>

出願者自身の作曲または編曲作品の楽譜などに関する質疑を実施する。

※口述試験の際には、提出した楽譜コピーを持参すること。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

<小論文>

試験当日、提示する出題文に沿って、1,200字程度の論述を求める。（試験時間90分）

<口述試験>

小論文の内容に関する質疑等を行う。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

<小論文>

試験当日、提示する出題文に沿って、1,200字程度の論述を求める。（試験時間90分）

<口述試験>

小論文の内容に関する質疑等を行う。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

一般選抜に同じ

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

一般選抜に同じ

《音楽に関する基礎能力検査》

(1) 楽典

一般選抜に同じ

(2) 聴音

一般選抜に同じ

(3) 副科ピアノ

注意事項：暗譜で演奏すること。記号による反復は行わない。
時間の都合により演奏の中断を求めることがある。

下記①～③の中から1曲を選び演奏する。

<課題曲>

- ① J. S. バッハ：インヴェンションまたはシンフォニアより任意の1曲
- ② ハイドン、モーツァルトまたはベートーヴェン：ピアノソナタより任意の1つの楽章（ベートーヴェンを選択する場合はOp.101～111は除く）ただし緩徐楽章は除く。
- ③ ツェルニー：30番練習曲 Op.849、40番練習曲 Op.299、50番練習曲 Op.740のいずれかより任意の1曲

※一般選抜に課されている<音階>は演奏しない。

(4) 音楽又は舞踊の実技

一般選抜に同じ

Ⅲ 一般選抜

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・コース		専攻試験			音楽に関する基礎能力検査				面接
		実技 検査	小論文	口述 試験	楽典 (注2)	聴音	副科ピアノ	音楽又は 舞踊の実技 (注3)	
音楽表現専攻	声楽コース	○			○	○	○		○
	ピアノコース	○			○	○			○
	弦楽コース	○			○	○	○		○
	管打楽コース	○			○	○	○		○
	作曲理論コース	○		○	○	○	○		○
音楽文化専攻	沖縄文化コース		○	○	○			○	○
	音楽学コース		○	○	○	○	○		○
琉球芸能専攻	琉球古典音楽コース	○			○				○
	琉球舞踊組踊コース	○			○				○

注1：○印は、受験者が必ず受験しなければならない科目を示す。

注2：沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、音楽表現専攻及び音楽学コースの楽典とは別問題とする。

注3：音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

注4：声楽、弦楽、管打楽、琉球古典音楽コース入学志願者の専攻試験の種目は以下のとおりである。

(声 楽) ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(弦 楽) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

(管打楽) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、
テナートロンボーン、バストロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、
打楽器 (A：小太鼓、B：マリンバ)

(琉球古典音楽) 歌三線、琉球箏

注5：弦楽コースのヴァイオリンを第1志望とする入学志願者は、第2志望としてヴィオラを受験することができる。
その場合には、第1志望の試験科目の他に第2志望の実技検査を受験しなければならない。

2 併願について

【併願可能な専攻・コース】

第1志望		第2志望		音楽表現専攻					音楽文化専攻		琉球芸能専攻	
		声楽コース	ピアノコース	弦楽コース	管打楽コース	作曲理論コース	沖縄文化コース	音楽学コース	琉球古典音楽コース	琉球舞踊組踊コース		
音楽表現専攻	声楽コース					○	○	○				
	ピアノコース	○				○	○	○				
	弦楽コース					○	○	○				
	管打楽コース					○	○	○				
	作曲理論コース	○					○	○				
音楽文化専攻	沖縄文化コース							○	○	○		
	音楽学コース	○					○					
琉球芸能専攻	琉球古典音楽コース						○			○		
	琉球舞踊組踊コース						○		○			

注：併願の場合には、第1志望の試験科目（専攻試験、音楽に関する基礎能力検査）に加えて、第2志望の専攻試験を受験しなければならない。

ただし、

- ①音楽学コースと沖縄文化コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では音楽学コースの科目を受験すること。
- ②音楽表現専攻の各コースと沖縄文化コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では、音楽表現専攻各コースの試験科目を受験すること。

3 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声楽コース

注意事項：

- ① 課題曲、自由曲とも暗譜で歌うこと。歌詞は原語で歌うこと（ただし、曲によっては通例歌われている他の外国語で歌うことも可）。
- ② 伴奏者は本学で用意する。ただし、事前の伴奏合わせは行わない。
- ③ 時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。
- ④ 演奏する曲に必ずイタリア語の曲を含むこと。

<課題曲>

下記の課題曲 17 曲から任意の 3 曲を選択し、入学願書に記入すること。

提出した 3 曲の中から試験当日、受験者本人のくじ引きにより 1 曲を歌う。

①	A. Caldara	Sebben, crudele	(d-moll, e-moll)
②	G. B. Pergolesi	Se tu m'ami	(es-moll, f-moll, g-moll)
③	G. Giordani	Caro mio ben	(Es-dur, F-dur)
④	A. Scarlatti	Già il sole dal Gange	(G-dur, As-dur, B-dur)
⑤	G. B. Bononcini	Per la gloria d'adorarvi	(G-dur, F-dur, Es-dur)
⑥	A. Scarlatti	Sento nel core	(d-moll, es-moll, f-moll, g-moll)
⑦	F. Gasparini	Lasciar d'amarti	(d-moll, f-moll, g-moll)
⑧	F. Durante	Vergin, tutto amor	(h-moll, c-moll, d-moll)
⑨	W. A. Mozart	Das Veilchen	(E-dur, G-dur)
⑩	F. Schubert	An die Musik	(B-dur, C-dur, D-dur)
⑪	F. Schubert	Frühlingsglaube	(F-dur, G-dur, As-dur)
⑫	R. Schumann	Die Lotosblume	(Des-dur, Es-dur, F-dur)
⑬	弘田龍太郎	浜千鳥	(C-dur, Es-dur)
⑭	瀧廉太郎	荒城の月	(c-moll, d-moll)
⑮	山田耕筰	かやの木山	(C-dur, D-dur)
⑯	信時潔	行々子	(Fis-dur)
⑰	中田喜直	さくら横ちょう	(b-moll, a-moll)

* ()内の調は、本学が用意する伴奏用楽譜の調である。他の調で歌う場合は、希望の調の伴奏用楽譜を出願書類とともに提出すること。

* イタリア歌曲は外国版を使用する時は、伴奏用楽譜を出願書類とともに提出すること。

<自由曲>

課題曲以外の任意の曲、ただし 5 分以内とする。歌詞は原語で歌うこと。

<コールユーブンゲン>

F. Wüllner : Chorübungen 全曲の中から、当日 1 曲を指定する。

固定ド、移動ド、のどちらで歌ってもよい。

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

注意事項：課題曲はA,B,Cの順に演奏し、すべて暗譜で演奏すること。

繰り返しは省略する。時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

下記の課題曲A,B,Cについてそれぞれ任意の曲を1曲選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<課題曲A>

J. S. Bach：平均律クラヴィア曲集第1巻または第2巻より任意の1曲
(プレリュードとフーガ)

<課題曲B>

F. Chopin：練習曲 Op.10 または Op.25 より任意の1曲 (Op.10-3, Op.10-6, Op.25-7 を除く)

<課題曲C>

L. v. Beethoven：ピアノ・ソナタ (Op.2-1~Op.90) より任意の第1楽章
(Op.27-1, Op.27-2, Op.49-1, Op.49-2, Op.79 の5曲を除く)

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

注意事項：すべて暗譜、無伴奏で演奏すること。記号による反復は行わない。

試験曲のうち、指定した版のある曲以外は、どの版を使用しても良い。

時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

◆ヴァイオリン

<音階>

Carl Flesch：Scale system より任意の調一つを選択。

5番 (3オクターヴの音階 Tempo は♩=80~100) 全部。

6番 (3度の音階 Tempo は自由) 冒頭4小節。

7番 (6度の音階 Tempo は自由) 冒頭4小節。

8番 (8度の音階 Tempo は自由) 冒頭4小節。

*フィンガリングは自由。

*スラー、リズムは C-dur に準じること。ただし重音のスラーは一拍ずつのスラーで演奏すること。

<課題曲A>

以下の練習曲、または、これらと同等程度以上の練習曲から任意の1曲を選択。

P. Rode：24 Caprices

J. Dont：24 Etudes and Caprices Op.35

<課題曲B>

任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章 (カデンツァは除く。ただし、作曲者が曲中に著したのものについては演奏すること)。

注. ヴァイオリンを第1志望とする志願者はヴィオラを第2志望とすることができる。

◆ヴィオラ

<音階>

C-dur の音階。Tempo は♩=80 以上

フィンガリングは自由。ただしボーイングは譜例に従うこと。



<課題曲 A>

R. Kreutzer : 42 Etudes より任意の 1 曲 (但しヴィオラ用の編曲) を選択。

<課題曲 B>

任意のヴィオラ協奏曲より第 1 楽章 (カデンツァを除く)。

◆チェロ

<音階>

J. Loeb: Gammes et arpèges より任意の調 1 つを選択。

4 オクターブの音階、4 オクターブの分散 3 度を、4 つずつのスラーで。

4 オクターブのアルペッジョを、3 つずつのスラーで。

2 オクターブの 3 度重音、6 度の重音を、スラーなしのレガートで。

<課題曲 A>

J. L. Duport: The 21 Famous Exercises (Etudes) より任意の 1 曲を選択。

<課題曲 B>

古典派以降の任意の協奏曲より、第 1 楽章または最終楽章 (カデンツァを含む)。

◆コントラバス

<音階>

下記の楽譜の調性で演奏する。

フィンガリングは自由。ただしボーイングは譜例に従うこと。

<課題曲 A>

F. Simandl : 30 Etudes より任意の 1 曲を選択。

<課題曲 B>

任意のコントラバス協奏曲より第 1 楽章 (カデンツァを除く)。

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

注意事項：無伴奏で演奏すること。暗譜でなくてもよい。

時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

【木管楽器】

◆フルート

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① E. Koehler : 35 Exercises op. 33 第2巻 (12 Medium Difficult Exercises) より No.2,5,7,8,10,11 の中から1曲を当日指定する。(版は自由)
- ② W. A. Mozart : Concerto in G major K.313 より第1楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆オーボエ

<音階>

須川展也：新版サクソフォーンのためのトレーニングブック (音楽之友社版) P55の音型を用い、長調の音階をスラーで演奏すること。繰り返しなし。テンポは♩=80~92とする。演奏する調は当日指定する。

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① F. W. Ferling : 48 Etudes op.31 よりNo.1~No.6の中から1曲を当日指定する。(版は自由)
- ② J. Haydn : Concerto in C major Hob.VIIg:C1 より第1楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆クラリネット

<音階>

R. Eichler : Scales for Clarinet 全長調の1番の中から演奏する。
調、アーティキュレーションは当日指定する。(国立音楽大学教育出版部)

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Rose : 32 Etudes より No.13~No.20の中から1曲を当日指定する。(Leduc版)
- ② C. M. v. Weber : Concertino für Klarinette und Orchester Es-dur op.26 J.109 (版は自由)

◆ファゴット

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① J. Weissenborn : Studies for Bassoon op.8 vol.2 よりNo.4,6,8,10,13,14の中から1曲を当日指定する。(版は自由、繰り返しなし)
- ② A. L. Vivaldi : Concerto in la minore F8/7 RV497 より第1楽章 (Ricordi 版)

◆サクソフォーン

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① F. W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones より No.5,6,11,12,17,18の中から数曲当日指定する。(Leduc 版)
- ② P. Creston : Sonata op.19 より第1楽章

【金管楽器】

(共通課題)

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



◆ホルン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.3,13,15 の中から 1 曲、No.17,26,28 の中から 1 曲の計 2 曲を当日指定する。(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② W. A. Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr.3 Es-dur KV 447 より第 1 楽章 (カデンツァを除く、Breitkopf&Härtel 版)

◆トランペット

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.8,10,12,15,19 の中から 1 曲を当日指定する。(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② T. Charlier : Solo de Concours (Schott 版)

◆テナートロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.5,6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由、繰り返しなし)
- ② A. Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (版は自由)

◆バストロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。
(1 オクターヴ下げて演奏する、版は自由、繰り返しなし)

② A. Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (Reift 版)

※テナー用の原曲を完全 4 度低く移調したバス・トロンボーン用の編曲で演奏すること。

◆ユーフォニアム

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① C. Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.7,8,9,11 の中から 1 曲を当日指定する。
(版は自由、繰り返しなし)

② A. Capuzzi: Andante and Rondo from Concerto for D. Bass (Peters 版)

※ソロ譜はユーフォニアムのパート譜を使用すること

◆チューバ

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① C. Kopprasch : 60 Studies より No.3,10,14,15,19,20 の中から 2 曲を当日指定する。
(Robert King 版、繰り返しなし)

② J. S. Bach : Air and Bourrée (W.J.Bell 編曲 Carl Fischer 版)

※使用楽器は、B♭、C、F 管のいずれかとする。

【打楽器】

打楽器 (A)、打楽器 (B) のどちらかを選択し入学願書に記入して届け出ること。

◆打楽器 (A) 小太鼓

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、七つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。
奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① M. Goldenberg : Modern school for Xylophone, Marimba, Vibraphone 39 Etudes より I (chappel & Co 版)

C. S. Wilcoxon : The All American Drummer より No.35~46 の中から数曲を当日指定する。
(Ludwig Masters 版)

② Siegfried Fink : Trommel-Suite (Zimmermann 版) より II .toccata V.marcia

◆打楽器 (B) マリンバ

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。
奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① W. F. Ludwig : Collection Drum Solos より 8 ページ Col.Andrews' (Ludwig Music Publishing 版)
M. Goldenberg : Modern school for Xylophone, Marimba, Vibraphone 39 Etudes より V, XII, XIV, XVIII から 1 曲を当日指定する。(chappel & Co 版)

② 三善晃 : 組曲「会話」(音楽之友社版) より 1. やさしいお話 3. いつまでも くやしい

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

<実技検査>

① 筆記試験（試験時間 90 分）

和声課題の実施。ソプラノ課題およびバス課題を四声体で実施する。

② 作品提出

作曲または編曲作品の楽譜を提出すること。提出作品数は3曲以内とし、提出作品には、ソナタ形式の作曲作品を1曲以上含むこと。

※提出作品の楽譜（製本せず表紙を含め、無記名）は出願書類と一緒に提出すること。

<口述試験>

実技検査で実施した和声課題、出願者自身の作曲または編曲作品の楽譜などに関する質疑を実施する。

※口述試験の際には、提出した楽譜コピーを持参すること。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

<小論文>

試験当日、次の課題図書に基づいて出題し、論述を求める。（試験時間 90 分）

【課題図書】

今村信隆『「お静かに！」の文化史——ミュージアムの声と沈黙をめぐって』（文学通信、2024）

<口述試験>

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書を必ず持参すること。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

<小論文>

試験当日、次の課題図書に基づいて出題し、論述を求める。（試験時間 90 分）

【課題図書】

今村信隆『「お静かに！」の文化史——ミュージアムの声と沈黙をめぐって』（文学通信、2024）

<口述試験>

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書を必ず持参すること。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

注意事項：<調弦>の試験は、試験会場に準備された楽器を使用すること。調子笛は、試験官により扱う。

<課題曲><自由曲>の試験は各自持参した楽器を使用すること。ただし、箏は本学で準備したものを使用できる。

<課題曲><自由曲>は暗譜で演奏すること。

◆歌三線

<調弦>

調子笛の音高（C 調子）に合わせて本調子を調弦すること。

<課題曲>

かぎやで風節

上り口説 ※1、2、3、8番

秋の踊り（道輪口説）※1、2、3、4番

※上記3曲の中から1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<自由曲>

二揚調子の古典曲または二揚調子の古典民謡から任意の1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。ただし、手事など歌を伴わない曲を除く。

※本コースでは、入学後、琉球古典音楽を学びます。

◆琉球箏

<調弦>

あらかじめC調子に調弦された「巾、為、斗、十、九」の音高をもとに本調子の調弦をすること。

<課題曲>

瀧落菅攪

<自由曲>

歌物の中から任意の1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

※本コースでは、入学後、琉球古典音楽（琉球箏曲）を学びます。

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

注意事項：<課題曲><自由曲>の地謡用音源（CDのみ）を出願書類と一緒に提出すること。

<課題曲>

・かぎやで風

・かせかけ

※上記2曲の中から任意の1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<自由曲>

琉球舞踊、又は八重山舞踊の中から任意の1曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<初見演技>

試験当日に例示する古典女踊の基本的所作を模倣して実演する。

<初見視唱>

試験当日に提示する台本の唱え（組踊「執心鐘入」から抜粋）

※本コースでは、入学後、琉球舞踊・組踊を学びます。

(10) 社会人選抜（音楽文化専攻、琉球芸能専攻）

【音楽文化専攻】

<小論文>

試験当日、提示する出題文に沿って、論述を求める（試験時間 90 分）

<口述試験>

小論文の内容および音楽文化に関する基礎知識についての質疑等を実施する。

【琉球芸能専攻】

<実技検査>

試験曲は一般選抜と同様とする。

<小論文>

試験当日、提示する出題文に沿って、論述を求める（試験時間 90 分）

<口述試験>

小論文の内容および音楽・琉球芸能に関する基礎知識についての質疑等を実施する。

《音楽に関する基礎能力検査》

(1) 楽典

筆記試験：音楽表現専攻および音楽文化専攻音楽学コース（試験時間 30 分）
音楽文化専攻沖縄文化コースおよび琉球芸能専攻（試験時間 40 分）

(2) 聴音

単旋律および四声体和声の聴音。

(3) 副科ピアノ

注意事項：暗譜で演奏すること。記号による反復は行わない。

時間の都合により演奏の中断を求められることがある。

下記の課題曲①～③の中から 1 曲を選択し、入学願書に記入して届けること。

音階および課題曲を演奏すること（音階→課題曲の順で演奏）。

<音階>

ハノン教則本第 39 番より # ♭ 記号 3 つまでの長調または短調の音階から試験当日に指定された調を演奏する。Tempo ♩ = 80 以上。

長調は繰り返しなしで、カデンツをつけて終わる。

短調は和声的短音階を 1 回弾いた後、カデンツをつけずに続けて旋律的短音階を 1 回弾き、カデンツをつけて終わる。

<課題曲>

① J.S.バッハ：インヴェンションまたはシンフォニアより任意の 1 曲

② ハイドン、モーツァルトまたはベートーヴェン：ピアノソナタより任意の 1 つの楽章（ベートーヴェンを選択する場合は Op.101～111 は除く）ただし緩徐楽章は除く。

③ ツェルニー：30 番練習曲 Op.849、40 番練習曲 Op.299、50 番練習曲 Op.740 のいずれかより任意の 1 曲

(4) 音楽又は舞踊の実技

音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

演奏または演舞時間は、3 分～5 分程度とし、全体の持ち時間は準備も含めて 6 分以内とする。

注意事項：

■演奏する志願者

- ・使用楽器、曲名、作曲者名を入学願書へ記入して届けること。
- ・楽譜は出願書類と一緒に提出すること。
- ・演奏は無伴奏とする。
- ・演奏楽器のうち、ピアノ、マリмба、コントラバス、箏は本学で準備したものを使用してよい。ただし、そのほかの本学の大型楽器の使用を希望する場合には、必ず事前に相談をすること。
- ・電子楽器等を持参する場合にも、必ず事前に相談をすること。

■演舞する志願者

- ・演舞する曲名を入学願書へ記入して届けること。
- ・演舞に用いる伴奏音源（CD）は、事前に再生を確認したものを出願時に提出すること。
- ・演舞可能なスペースは 4 m(縦)× 4 m(横)× 2.5m(高さ)程度とする。ただし、特別な演出等がある場合には、事前に相談をすること。

令和9年度

試験曲

音楽学部

教科科目に係る個別テスト等

令和8年6月 発行



沖縄県立芸術大学

OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

〒903-8602

沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地

電話 098-882-5080 (教務学生課)

<https://www.okigei.ac.jp>